

市電こぼれ話 市電を生かした街づくりを考える「市電の会」では、賛助会員を募集しています。詳しくは事務局（地域振興課まちづくり担当 ☎(231) 2400 内線219）まで

## 懐かしの市電、これからの市電

北海道レイルフォト  
ライブラリー会長  
奥野和弘さん（六十歳）

私が生まれ育ったのは、市電沿線の南一二条西一五丁目でした。そこで幼少期から学生時代までを過ごし、街へ出掛ける時や通学時に市電をよく利用していました。

一番古い市電の記憶は、昭和二十二年ころのことです。当時、今の北海道教育大学付属小学校は南二条西一五丁目にあり、並木の枝をかき分けながら、市電がその周りをぐるりと回る光景を鮮明に覚



奥野さん撮影の電停西線11条付近（上、昭和41年）と藻岩山を背に走る市電（左、同49年）。奥野さんは、鉄道や市電の写真を通し、社会や人々の暮らしの変遷を後世に伝えることをライフワークにしている

えています。

思い出深いのは、小学校入学前のころ、初めて一人で電車に乗り、北二四条に住む祖母を訪ねたことでしょうか。着いた時は大変感激しました。

昔の市電は、集電装置にポールが使われており、カーブの時など、そのポールがはずれることが頻繁にありました。その時は、車掌が窓から身を乗り出して直すのですが、直すのが上手な人と下手な人がいて、手際の良い人を見ると職人芸だと感心したものです。

自宅のあった西線一帯は、停留所付近に商店街ができ、沿線に住宅街が立ち並んでいました。それから周辺の市街化が進んでいったようです。道路舗装が始まったのは三十年代に入ってからだと思います。最初は市電の軌道部分だけが、コンクリートブロックを敷き詰めて舗装されたので、その上を車まで走っていることがよくありました。西線は、市電を中心に発展した感がありますね。

今、市電の路線は中央区に残るだけですが、せっかく残ったこの財産を積極的に活用してほしいですね。利便性や効率だけを追い求めず、長い目で見て何が大切か考えれば、札幌を人と環境に優しく、ゆとりを持って暮らせる街とするため、これからも市電が果たす役割は大きいはずです。

## 急ぎ足の波

昭和40年  
南1条西4丁目

通勤・通学の足として市電は活躍した。昭和36年に混雑緩和のため導入された連結車が何台も連なり、多くの乗客で混雑している（写真：札幌市教育委員会文化資料室）



## 花見客ご一行さま

昭和5年 円山公園  
毎年5月ころには、何台もの貸切電車に乗って、多くの人が円山公園へ花見に繰り出した（写真：長南千代吉氏）



## 喜びを乗せて

昭和34年 花電車の走行風景  
大正7年の電車開通時をはじめ、記念行事に合わせ、きらびやかに装飾された花電車が運行された。写真は現在の天皇陛下ご成婚時の花電車（写真：小熊米雄氏）



## 冬の風物詩

昭和初期 除雪風景  
軌道除雪のため、助川貞次郎の子で札幌電気軌道株式会社の技術長だった助川貞利が考案したのが、割り竹を一つに束ねたササラで雪を跳ね飛ばす方法。この「ササラ電車」は、現在まで冬の風物詩として親しまれている（写真：電車事業所）

